

# 市P連おおた

## 第26号

★発行 所:太田市小中特別支援学校 PTA 連合会

★発行責任者:柳 和佳

★編集担当:太田市P連東ブロック

九合小学校 PTA/ 高橋邦祐 龍川小学校 PTA/ 田中寿子

休泊小学校 PTA/ 穂積昌信 中央小学校 PTA/ 町田哲

旭小学校 PTA/ 塩川公之 胸形小学校 PTA/ 橋本嘉之

東中学校 PTA/ 橋本孝行 休泊小学校 PTA/ 石崎美樹

城東中学校 PTA/ 蓮沼邦博 旭中学校 PTA/ 中本理

★印刷 所:株式会社アド・レーベン

題字:太田市P連会長 柳 和佳

## 「紙ひこうき」

太田市教育長 澁澤 啓史



子どものころには誰もが夢中になつて紙ひこうきを作って飛ばしたことがあるはず。遠くへ飛ばすように、長い時間飛び続けるようにと願いを込め、夢中になつて何度も何度も作り直しては飛ばしました。決して遠くに飛ばすことができないと分かった今でも飛ばしてみたくありません。

そのことがとても不思議に思えます。飛んだ結果よりも自分で作った紙ひこうきを自分で飛ばすことに楽しさがあるようです。手作りの楽しさなのでしょう。子どもたちは将来、今までの以上に様々な経験をしていくことでしょう。いやなこと苦しいこともたくさんあるはず。しかし、その一つ一つに必ず楽しさがあります。紙ひこうきではありませんが自分の手で楽しさを作ったり見つけたりするところが大切だと思います。そんな子どもたちを家庭では、学校ではどのように支援し



ていけばいいのでしょうか。まずは家庭も学校も簡単に結論を出さず、その答えを模索し続けることだと思えます。そして、大人にとって無駄なように思える子どもたちの行動を認め、見守ることが最も大事なこともありません。そんな環境の中で育つ子どもたちは夢を抱く中で生きがいややる気や自信を生み出してくれるのに違いないと思います。皆さんで逆境に立ち向かっていく子どもたちの姿を期待していきましょう。

## 毎月第1日曜日は おおた家庭の日

家族みんなで語り合い、楽しみあい、協力しあって家庭のきずなを深め、あたたかい家庭を育みましょう

## 【群馬県PTTA 桐生大会】

(12/1)

東中学校PTTA会長 橋本 孝行



平成30年12月1日(土) 桐生市市民文化会館にて「未来へとどけ子どもたちの笑顔」をテーマに開催されました。会場には、ぐんまちゃんやキノピーに出迎えられ、設営された方々のおもてなしを感じました。地元小学校合同の金管バンドによる演奏がオーブニングアトラクションとして演奏され、会場を大いに盛り上げてくれました。



その後は、PTTA活動に貢献された方々、団体の表彰が行われました。様々な活動に参加し、ご活躍頂いた方々に感謝し、身の引き締まる思いでした。講演会では、群馬大学名誉教授の片田敏孝氏に「地域と連携した防災教育が子供を変える地域を変える」と題して、ご講演を頂きました。地域と教育が密接に関係し、防災教育が図れることに改めて考えさせられ、感銘を受けました。

## 【会員研修会】

(11/18)

鳥之郷小学校PTTA会長 眞井 順一

平成30年11月18日、毎年行われている太田市小中特別支援学校PTA連合会主催、会員研修会に参加させて頂きました。今回講師に前橋東警察署 地域課 茂木聖也さんを迎え、御自身がじめにあった経験から、親として子供とどう向き合っているのか、大変貴重なお話を聞かせて頂きました。自分が茂木さんに講師をお願いしようと思つたきっかけは、鳥之郷地区の会議に出席した時、当時太田警察署勤務だった茂木さんの、地域を守る交番のおまわりさんとしてのお話がとても面白く、是非この人に講師をして頂きたいとの思いから実現に至りました。警察官としては型破りの茂木さんのお話は、笑いや感動を呼び、最後の質問



コーナーでは色々な質問が飛び交い、時間の足りないあつという間の講演でした。

地域を守る交番勤務の茂木さん、警察官は決して怖くなく、皆さんも自分の地域を守っておまわりさんがどう言う人か、悩みや相談をしに来たり、何もなくても気軽に遊びに来てくださいと仰っていました。自分も寄つて見ようと思えます。またアトラクションには日本古来の伝統芸能、詩吟、剣舞を新田市野井に道場を構える心詠流歌吟舞踊心詠会の皆様に出演頂きました。普段あまり見ることのないアトラクションに凄く新鮮で良かったと大好評でした。



▲当日はNHKの取材も行われました。

## 【母親委員会】

椎名 麻理子 母親委員長



PTTA会員の皆様には日頃より、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。平成30年度母親委員会では「心の声をきいてみて」をテーマに、今何を考え何をすべきかをテーマにこれまでに5回の活動を行ってまいりました。

「親として知っておきたいこと」という講話でした。現役の警察官のお話という事もあり、実例とともに貴重なお話をいただきました。第二回は「親子でヨガ」第三回は「不快感情が上手く抑えられない子どもたちへの理解と接し方」の講話、第四回は「平来美佳様の講話とコンサート」そして一月の第五回「身近に潜む依存症」の講話を最後に一年間の行事が終了となりました。どの回も普段聞けないお話や体験ができ、また、各単Pの会員様と活発な意見交換をしながら皆さんの取極のある母親委員会であつたと思えます。PTTA会員の皆さまのご理解とご協力によって一年間素晴らしい活動ができました。ありがとうございました。

## いじめ防止子ども会議



H31年1月16日 宝泉行政センターにおいて「いじめをなくすために、自分たちでできることは何か」を仲間同士で考え合えることを目指して、いじめ防止子ども会議を開催されました。各小中学校代表1名、引率教員、市PTA連合代表生徒指導担当校長、市教委で11名の参加。今回の会議は東中学校の生徒会で進められ、活発な意見交換がされました。班別会議になってそれぞれの班でしっかりと個人の考えや学校のスローガンを伝え、議論し、班ごとのスローガンをまとめ、発表までを生徒達が務めていました。



鈴木奈保子さんは25年前に、給食の仕事に就きいろいろな学校の給食の職員として、子供たちの栄養と体を支えてきました。現在は係長代理として市内中学校で働かれています。私達保護者には、普段見えない給食室。そこにはどんな思いや努力があるのだろうか考え、鈴木さんにインタビューさせていただきました。

### 給食・食生活の変化

**PTA(以下P)：**鈴木さんがこの仕事を始めたころと今とは何か変わってきたと感じることはありますか？  
**鈴木さん(以下S)：**まだ夢中でやっていたころなんですけど20年くらい前かな、当時中学校にいた時に朝ご飯を食べてこない子がいっぱいいたんです。だから、「給食がおいしい」「給食が食べたい」と。和食を求めてくる子がいましたね。味噌汁が飲みたいとか。  
**P：**私達も親として反省しないといけないですね。  
**S：**朝何を食べてきたか聞くと、「冷凍食品のピザを温めて食べた」と。  
**P：**耳が痛いかぎりです。



鈴木奈保子さん  
 係長代理  
 嘱託 2年  
 正規職員 23年  
 過去勤務先  
 城東中 旭中 浜町保育所  
 太田東小 駒形小 強戸中

**S：**そういう子がいっぱいいて、この子達の3回の食事のうち1回をしつかりと作ってあげなくては、と思ったんです。今の給食はごはんの給食が多くなっています。  
**P：**私達の頃(30~40年前)は、給食はほぼパンでした。今はお米がそんなに多いんですか？今太田市では、地元のお米を地元で精米して、一生懸命やっていますもんね。  
**S：**各学校によりまして、1ヶ月に5~6回パンの日があり、その他の日はごはんを提供しています。

### 地産地消・地域との繋がり

**P：**発注は学校ごとですか？  
**S：**発注は学校ごとです。学校が近くの業者さんをお願いしています。  
**P：**その業者さんに、地元産を頼んだりするんですか？  
**S：**野菜などはお願ひできますね。「学校給食ぐんまの日」と「学校給食おおたをたべようの日」が年に一回あり、地場産農産物を多くとり入れた献立を提供しています。  
**P：**県産のものはありますか？  
**S：**県産です。小麦粉からパンを作るのも全部ですね。  
**P：**パンじゃなくて、素材の部分からなんですかね。かなりの努力ですよね。メニュー決めなどは、各学校で独自に行われているんですか？  
**S：**そうですね。学校で独自でやっています。栄養士と調理員で案を考え、献立会議で校長先生や他の先生方と検討をして、献立を決定しています。

### 工夫と努力

**P：**仕事のどんなところが楽しいと感じますか？  
**S：**一番感じたのは、小学校に居た時でした。小学校は、私達作る側と食べてくれた子供達との距離が、近いんですよ。  
**P：**子供達との距離が近いとは、どういうところで感じますか？  
**S：**小学生だと「今日のおいしかったよ！また作って！」って言うてくれる。  
**P：**わざわざ、言いに来られるんですか？  
**S：**言いに来られるんです！以前、勤めていた小学校は、給食室の裏に学童があったのですが、裏で掃除とかしていると、「大先輩また作って！」とか声をかけてくれるんです。  
**P：**なるほど！作り手としてそれは、相当嬉しいですね。  
**S：**嬉しいですね！中学校になると、遠く感じますね。どんな人が給食を作っているのか、見えないんです。中学生になると、声掛けも少なくなりますし、照れ臭くなってきちゃいますね。  
**P：**今まで、工夫を重ねてこられて、何か感じたことなどはありますか？  
**S：**小学校に赴任した時、残食が多かったんです。成長期の小学生だし何とかしなくてはいけない、と思いました。子供の身体の三分の一を作っていると自負しているんですけど、身体を作



▲美味しい給食を作ってくれる手にはプロの証の包丁ダコがしっかりと

るって事を踏まえると、この子達にちゃんと食べてもらわないといけないから、頑張ろうと思いました。それからすぐです、残食が減ったの。  
**P：**そこには、どんな工夫が？  
**S：**まずニンジン。サラダにニンジンが入りますけど、ニンジンはフードスライサーという機械で切っている学校が多いと思うんですね。けど、私は、金の網から細く切けて出してしまうくらい、ほそーく、手で切るんです。  
**P：**機械で切ったものを、更に細く切るんですか？  
**S：**いえいえ。全部薄くスライスするところから、手で切るんです。そうすると、ニンジンの味があまりなくて、食感もいいんです。食感が良くなるのでニンジンが苦手な子もサラダを食べる様になります。また、ピーマンが苦手な子もサラダを食べる様になります。細く切ってからお湯をかけて、水で流し、臭みを取って、一番最後にに入れて食べやすくしています。それから、ニンジンの工夫は他にもおこなっています。大概の子がカレーに、ニンジンを入れるので、食べてくれますけど、だいたいイチョウ切りの大きいのが、入っているとありますが、私はイチョウ切りにしていません。ひと口大の角切りにしています。小学生でも、1年生から6年生までいて、口の大きさも違う。1年生の口ってすごく、ちっちゃいんですよ。その子供達に合わせないと、給食を嫌いになってしまいますから。小学校では、低学年と高学年の釜を二つに分けて、カレーの時、低学年は小ぶりの具材で甘めのカレー、高学年は野菜をちよっと大き目で、辛めのカレーという工夫はしてきました。  
**P：**何百人分も時間内に作らないといけないのに具材のサイズや味付けまで変えるのは大変ですね。  
**S：**時間は絶対に守らないといけないです。やりがいがありますよ。

### 「おふくろの味」

**P：**今までの、努力や工夫など保護者に届けたらと思いますか？  
**S：**そうですね。子供達の食べやすさまで考えて工夫していることは、お知らせしたいです。例えば、肉じゃがのジャガイモは、食べる時にジャガイモが溶けて、ベタベタ状態になっていることがあって、それがそっくり残食として残ってしまうので、私は角を取らない様に、角がなくならない様に食缶の中に取めるんです。食缶の中でも、煮えちやいますから、子供が食べる時に丁度角が取れて、やわらかくなったところで、よそってもらうと食べてくれます。  
**P：**食べるタイミングまで考えてくださったっていいですね。出来た物を渡すだけ、という、感覚ではなくて、口に入り消化して貰うまでが、給食なんですかね。  
**S：**私は、そう思うんです。  
**P：**愛情たっぷりのおふくろの味ですね。もっと、簡単に作れる様に機械などで、合理的な努力をしているのかと思っただけですが、そこじゃない努力がいっぱいあったんですね。ひと手間かけてくださっている人がいることに我々は感謝しないといけないですね。



▲全校分の調理の釜はお風呂のような大きさ、シャモシも特大サイズ  
 ▲生徒全員分の食材をカットすると野菜の山が出来上がります。

